

# SHOW HEY シネマ 4

★★★★

## 蜘蛛の巣を払う女

2018年/アメリカ映画

配給：ソニー・ピクチャーズエンタテインメント/115分

2019 (平成31) 年1月12日鑑賞

TOHO西宮シネマZOS

### Data

監督・脚本：フェデ・アルバレス  
原作：ダヴィド・ラーゲルクラッツ  
『ミレニアム4 蜘蛛の巣を払う女』（早川書房刊）  
出演：/クレア・フォイ/スヴェリル・グドナソン/レイキース・スタンフィールド/シルヴィア・フークス/スティーズ・マーチャント/クリストファー・コンヴェリー/クレス・バング/シヌーブ・マコディ・ルンドノ

### ■ショートコメント■

◆スウェーデン初の「ミレニアム」シリーズである『ミレニアム1 ドラゴン・タトゥーの女』（09年）（『シネマ24』182頁）、『ミレニアム2 火と戯れる女』（09年）（『シネマ25』73頁）、『ミレニアム3 眠れる女と狂卓の騎士』（09年）（『シネマ25』76頁）はすべて星5つで、それぞれ見応え十分だった。また、そのハリウッド版『ドラゴン・タトゥーの女』（11年）（アメリカ、スウェーデン、イギリス、ドイツ合作）では、監督を務めたデヴィッド・フィンチャーがルーニー・マラを主演であるドラゴン・タトゥーの女リズベット役に大抜擢し、『007』シリーズでジェームズ・ボンド役を演じたダニエル・クレイグが共演したが、これも面白く、私の採点は星5つだった（『シネマ28』37頁）。

◆そんな人気シリーズを放っておく手はないとばかりに、「ハリウッド版」（アメリカ）でシリーズ第4作となる本作が公開された。パンフレットによれば、原作者のスティグ・ラーソンは『ミレニアム』シリーズを10部作とする構想を持っていたが、第4作の準備をしているときに急死してしまったため、『ミレニアム4 蜘蛛の巣を払う女』と『ミレニアム5 復讐の炎を吐く女』は“完璧な代筆者に完璧な続篇”らしい。そして、2019年発表予定の『ミレニアム6』では、「おそらく全面的な対決が描かれることになるのではないか」と書かれているから、すごい。

◆「ミレニアム」シリーズでは、タイトル通りドラゴン・タトゥーの女主人公であるリズベットの強烈な個性が最大のポイント。しかして、『ミレニアム4』で描かれるのは『ミレニアム1-3』からしばらく経った後の出来事らしい。そして、本作冒頭では、人里離れ、周囲を雪に囲まれた家で、幼い双子の姉妹がチェスで遊んでいる風景が映し出された後、あっど驚くシークエンスが登場する。この双子の姉妹の姉がリズベットで、妹がカミラだ

が、『ミレニアム』シリーズ第4作の舞台は、それから16年後のストックホルムとなる。さあ、成長した2人の姉妹は今どこでどんな生活を・・・？

◆本作でリスベットが受ける依頼は、世界の核兵器発射コードにアクセス可能なプログラム「ファイヤーフォール」を作った科学者であるフランス・バルデル（スティーブン・マーチャント）から、そのソフトをアメリカのNSA（アメリカ国家安全保障局）から取り戻して欲しい」というもの。そう聞くとなるほど今風だが、私の知的レベルではその内容はサッパリわからない。

リスベットはNSAのシステムにログインして「ファイヤーフォール」を盗み出すことに成功したものの、ストックホルムからの不正侵入に気づいたNSAはスペシャリストのエド・ニーダム（レイキース・スタンフィールド）を現地に向かわせ、そこから「ファイヤーフォール」を巡る激しい争奪戦が始まっていく。

◆『ミレニアム』シリーズと名付けられているとおり、このシリーズでは、月刊誌「ミレニアム」の発行責任者であるジャーナリストのミカエル・ブルムクヴィスト（スヴェリル・グドナソン）がリスベットと並ぶ主役になるのだが、本作では若干その陰が薄くなっている。そして、その分、後半からクライマックスにかけては、リスベットの双子の妹であるカミラ（シルヴィア・フックス）の存在感が大きくなってくるので、それに注目！そして、本作の楽しくもめまぐるしい展開については、あなた自身の目でしっかりと！

2019（平成31）年1月17日記